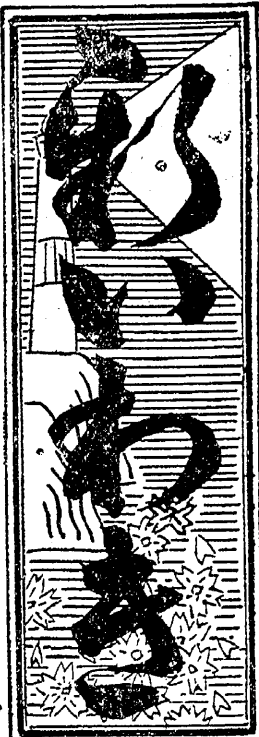


【刊夕日六十二月一】



日曜大祭日
一月二十五日
二月二十五日
三月二十五日
四月二十五日
五月二十五日
六月二十五日
七月二十五日
八月二十五日
九月二十五日
十月二十五日
十一月二十五日
十二月二十五日

關係町村と相携へて 大工町踏切改修請願

本縣出身の菅村委員長に 木村比佐兩代議士を経て

既報する廿四日の午町町
會に於て附議された同町字
大工町の踏切改修請願
は近年同方面の發展に難路
する車馬の交通に一大

支障を呈しつゝあ るが爲め關係部民は當局に 向つて一再ならず右の改修 を陳情せるも未だに希望を 達成されず之れが爲めに受 くる各所用能率減の損害甚 だしく

如何に

しても改修
實現を期したいと云ふので
今回は同交通關係の好問、
中窪、神谷、飯野各村と相
携へて目下開會中の議會に
對し木村、比佐兩代議士を
經て請願委員長菅村太事氏
に文書

請願を

なすことに
なつた又同町會の水道擴張
部吏員月額旅費規程は左記
に決し行政區長の推薦は第
三區（三丁目）梅原利三郎、
第二十區（堤の内）大塚武雄
兩氏にきまつた

水道擴張部吏員 の月額旅費規程

▲月額、技師二五圓、課
長十五圓、書記一〇圓、
技手一五圓、工手一二圓
書記補一〇圓、工手十圓

吉田校長風邪

平商業學校長吉田利吉氏は
廿二日來風に冒され自宅静
養中であるが一日頃から
快方に向ひ明日から出勤さ
れると云ふ

鮫川水利の 通常總會

來る二十日

團體事務所
石城郡鮫川普通水利組合で
は來る二十日午前十時から
平町團體事務所樓上に於て
通常總會を開催し六年度豫
算を附議の筈であるが經常
費に於ては昨年より若干の
減少ある模様なるも復舊計
劃に伴ふ臨時部があるの
總額一萬數千圓に上るらし
く昨年の同組合豫算は五千

平署管内の 傳染病

百三十七名

百四十一圓であつた
平署管内に於ける昨年の傳
染病患者並にその死亡率は
左記の如く總數三百三十七
名で腸チフスが最も多く次
はデフテリア及び赤痢等の
順になつてゐる而して本年
には入つての患者ではデフ
テリアが非常に多く昨年年
期の四名に對して既に八名
増の十二名を算し内一名死
亡してゐるが之れに反して
腸チフスは昨年より二名減
の現在二名で目下のところ
では昨年より割合發生が少
ない模様である

改善された濱通木炭

中央から非常な歓迎

此の不景氣に飛ぶ様な賣行
距離近な運賃安關係もある
濱通りの木炭は現下の不景氣
を更に意外の賣行きで騰で
前年と大差なき相場を
本月の如きは昨年同様の始
り倍増に近く廿萬俵の移
送を見るであらうと云はれ
てゐる之れが爲め

去頃の 爲めに

出落薄の關
容易でない

餘もあるが近年同地の木炭
は漸次改良されて品質頗る
結果らしく去十二月中に於
て向上し岩手青森等に比
較し遜色なきに至つたのと
中央に距離が近い運賃安か
其の大半は東京に移送され
たもので明らか其の賣況
を示してゐると

日頃の書入期節にも 活氣立たぬ鮮魚市況

披露簡素で建築は少なく

石城地方の各濱は主漁地の
ぬ儲薄の行商連にもこぼさ
江名町江名及び中の作を初
め各濱共に鮮魚の漁獲が相
當に豊富で平町魚市場には
毎日千貫内外の出廻りを早
せてゐるが地方に於ける婚
期節に
割合そ
れが少
ない
上に出來たもの、披露宴そ
の他を努めて簡素にされる
フス二八名（内死亡二名）
（内死亡一〇）赤痢四二名
（内死亡四）疫病三八名
（内死亡一）バラチフス
九、腸脊髄膜炎二（内死
二）猩紅熱その他

濱木炭組合の 支部長會

明年度豫算 編成に關し

濱通三郡の木炭同業組合で
は來る廿七日午前十時から
明年度豫算編成に關し支部
長會を開催の筈であるが前
年度の約二萬圓より幾分減
少を見る模様であつて同會
に於て次年度の事業計劃を
の他が決まれば二月月中旬
頃評議員會を開き同月末に
於て總會を開催されるもの
と云ふ

妻戀ふる 旅の乗越

告發を猶豫され て好問に向ふ男

平町字北目町七四鈴木徳江二女
十一月十五日午前四時
平町字大町三一鈴木勝雄長女
十一月十日午前八時

急落か 乞食の凍死

口城郡飯野村の南白土字六
分乃至三割を下落し漁業
の不平に續いて荷嵩に件は

今婦人に望む

一家も國も救れないと思ふ
先づ一家の收入の源泉に
就ての理解を必要とする一
として永久に安心の出來る
とて不慮に安心の出來るも
に變動する以上は財産の産
む収益も變動する、殊に急
業資本や株式投資の収益の
如きは何時皆無となること
り知れぬものであることは
近來の事は何よりもよく教

下車した東京府下大井町居
住北海道生れと稱する勞働
者福本武一（一）は岩手縣三
澤驛から前澤までの切符で
乗越たことを發覺し驛前派
出所に突だされて取調への
結果同人は曾て石城郡好問
の炭礦に働いてゐた當時村
内から迎へた大字北好問北
郷萬次郎娘と共にと所々
稼ぎの旅中に於て思ふ仕事
がない爲め二人の子供まで
ある仲を兩兒共妻に任せて
別れたが一人旅となつた武
一は依然就職難に浪々し妻
と別れる際百七十圓の郵便
貯金通帳を渡してゐると
今更に女房戀しく後を追ふ
て來たものと判り廿七日迄
に過乗科金三圓卅六錢を支
拂ふ約束で鈴木巡査部長立
會の上漸く告發を猶豫され
た

平の人事

▲出生
平町字北目町七四鈴木徳江二女
十一月十五日午前四時
平町字大町三一鈴木勝雄長女
十一月十日午前八時

旅の乗越

平町字北目町七四鈴木徳江二女
十一月十五日午前四時
平町字大町三一鈴木勝雄長女
十一月十日午前八時

妻戀ふる

平町字北目町七四鈴木徳江二女
十一月十五日午前四時
平町字大町三一鈴木勝雄長女
十一月十日午前八時

急落か

口城郡飯野村の南白土字六
分乃至三割を下落し漁業
の不平に續いて荷嵩に件は

今婦人に望む

一家も國も救れないと思ふ
先づ一家の收入の源泉に
就ての理解を必要とする一
として永久に安心の出來る
とて不慮に安心の出來るも
に變動する以上は財産の産
む収益も變動する、殊に急
業資本や株式投資の収益の
如きは何時皆無となること
り知れぬものであることは
近來の事は何よりもよく教

地方の意義 (五)

R Y 生

自治の範圍

市町村(公共團體、地方自治體)が國家の許した範圍内に於て公共事業を處理すること前述の通りであるがその範圍は國の法令に依つて決定されてゐる

例へば平町が上水道を設けたり實業補習學校を設けたりするのは監督上國家の許可は必要とするけれども設けるか設けないかと云ふことは平町で決定すべきことであるが尋常小學校教育を平町でやるかやらぬかと云ふが如きことは平町に於ての權能はない、國家が決定すべき事である、國全體を通じて決定することを必要とする公共事務は國家これを決定し地方の事情に應じて適宜に決定するを便宜とする公共事務は市町村自ら之れを決定することになつてゐる

我が國の市制第二條及び町村制第二條に於て市町村は法人とす、官の監督を承け法令の範圍に於て其の公共事務並に従來法令又は慣例により及び將來法律勅令に依り市町村に屬する事務を處理す
と規定されて居り自治體の取扱ふ公共事務の範圍は相當に汎いものである
自治體の事務
前述の範圍内に於て市町

村の職權すべき事務は之を大別して二ツとなし得る
一、固有事務(隨意事務)
二、委任事務
これである

冬物入荷 澤山 伊伊関吳服店

冬物入荷 澤山 伊伊関吳服店

ガソリン モビール油 日本石油 株式会社
特約販賣 油 間屋 店商内關 油 槽 所
支店 郡山市 駅前大通 電話三三八
支店 茨城県 關本驛前 電話四七三三
出張所 平町四丁目 郵便局前

優良品の賣場 伊伊関吳服店
冬物入荷 澤山 伊伊関吳服店

ふゆの通學服 斷然特賣の超尖端
小學生用長ズボン付
特製.....95錢ヨリ
極上品.....140錢ヨリ
中學生用
特製.....170錢ヨリ
極上品.....250錢ヨリ
買良き店 5丁目
モリタヤ洋品店
電話 852番

平町田町通電話六五六番
玉屋洋品店

警城共濟會 (警城平町) 電話六四二番
本院長 醫學博士 難波 睦
本院主管 賀澤 忠治
本院病棟 救護を申込る、方は當院内へ相談所へ御話し下さい
本院病棟 救護を申込る、方は當院内へ相談所へ御話し下さい
本院病棟 救護を申込る、方は當院内へ相談所へ御話し下さい

よろこびますか うちりますか
中島寫眞館 平町字田町

諸毒下しの大妙藥 安流丸
特約 山野遠藥局

平田町 電話三五三
サロンの献立
安價に 迅速に 町噂に 親切に
遠藤活版所 電話二七七番

味噌醬油 正宗 山崎會社
御進物には 商品切手
電話 釀造部 二七番 營業部 一〇番

高久病院 院長 醫學士 高久 忠
外科、小兒科 平町、電話五二三番
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科